

当事者と家族の声

2016年8月、若年性認知症と診断されました。

以前から、自分でもなんかチョットおかしいなあ、と思っていたので、

「えーとか、嘘だろう」とも思いませんでした。

そうなんだと、スーッと、受け入れることができました。

2017年5月、仕事のミスが増え、注意されるようになりました。

所長は「続けてはどうか」と言ってくれましたが、現場の人からは、

そういう声はありませんでした。

もう、仕事は続けられないと思い、勤務先には病気のことは話さないまま、月末で退職しました。

4日後、以前大下さんに紹介して頂いた、農家での仕事の内容を、一緒に聞きに行きました

週4日の午前中2時間、水曜日は休みの希望を伝えました。

翌日から農家で、ジャガイモを選別する仕事が始まりました。

初めてのことで、誰かが就いてくれれば出来ることでも、ひとりになると作業の手順など聞いたことを忘れてしまい、とても不安になりました。

すると、何もできずに固まってしまい、ボーツとしていました。

二日目には、農家の方が表示してくれたので、わかり易くなりました。

そして、大下さんや代表のお母さんが、交代で一緒に仕事をしてくれたのは、ビックリしました。

不安が吹っ飛び安心しました。

ジャガイモの他には、ズッキーニやオクラの袋詰めもしました。

ブロッコリーやカリフラワーの種まきは、初めての事でドキドキしました。

今年5月の日曜日、一年ぶりにハウスズッキーニの袋詰めをしました。

この日は、400本を袋に入れ 値札シールを貼りました。
京阪神に出荷されます。

昨年、鳥取県米子市で開催された、認知症の人と家族の会「中国・四国 ブロ
ック」本人交流会に、妻と一緒に初めて参加しました。

丹野さんや藤田さんなど、当事者との出会いはとても力になりました。

グループホームで、バザーのお手伝いもしました。

「品物を見て、好きな値段を付けていいですよ。」と言われ、
紙に百円、二百円といっぱい書きました。

自分を信用して任せてくれました。

買い物に来てくれた子供さんとの会話も、楽しかったです。

阿波踊りの前の夕食会や忘年会では、女性方がビックリするくらいの
ビールを飲みますが、私は全くお酒は飲めません。

旅行やけん玉に挑戦したり、芋ほりやお花見、七夕飾りを書いたり
家族の会の皆さんと様々なイベントに参加して、笑いあり、
楽しく過ごしています。

2年前からは本人世話人として、活動しています。

認知症カフェや本人交流会で使う手作りのゲームや、歌詞カード、魚の絵も
書きました。

家では絶対しない事ばかりですが、頭の刺激になると思っています。
見本を見ながら、私の好きな様に好きな色で、考えて書いています。
任せてくれるので 気持ちが楽になります。

このペットボトルのキャップを使ったゲームは、認知症カフェでも
皆さんが楽しんでいます。

今年4月と5月には、男性が昼食作りに挑戦しました。

私は、包丁は頼まれる以外使いませんが、この時は赤いエプロンをつけて、頑張りました。

その間、女性方はコーヒーを飲みながら、楽しく過ごしていたそうです。

この本人交流会は、毎月一回 第4日曜日に行っています。

参加者ひとりひとりみんなが主人公で、20名位が集まります。

会場設営の机並べから始まり、片付けをして4時間で解散します。

何をするのかなども相談して決めています。

7月には、「やりたいこと」を書きました。これは私が書いたものです。

私は普通に生活をしたい。

誰かの役に立ちたい。私はボランティアをやってみたい。

家庭とも会社とも違う集まりで、誰もが気兼ねなく参加できるので、とても楽しみな時間となっています。

週末は家族と一緒に映画を観たり、行き慣れた温泉に入るなど、

自宅でボーっとすることはありません。

妻が仕事をしているので、手伝えることは何でもしています。

毎食後の食器洗い、掃除、洗濯などですが、一つだけできない事があります。

それは料理を作ることですが、お米を研いで炊くことは出来ます。

家族の会では週4日、午前中2時間余りお手伝いしています。

毎月出勤表を貰っているのですが、毎日何度も確認しています。

たまに間違っただけで出勤する日もあります。そのまま受け入れてくれるので、間違えた事に気づくのは、家に帰ってからになります。

会報の発送、講演会の資料詰め、認知症カフェや認知症啓発活動の準備等を行っています。

間違わない様に気を付けていますが、同じことをしていても分からなくなる時があります。

その時には、「あれ、分からなくなりました。」と言っています。この言える環境が良いんです。

すると、その日の私の頭の調子によって、説明の方法を変えたり、作業を変更したり、頭を休める為に、コーヒータイムで気分転換してくれています。

失敗しても怒られない。「今日は調子がいいですね。」と言ってくれるのも前向きになれます。

支部総会では、感謝状と記念品として図書券もいただき、大変嬉しい出来事でした。

通勤はバイクでしたが、大下さんの勧めもあり、昨年九月からはバイクに乗るのを止め市バスで通っています。

午後は、頭を休める為にお昼寝をしています。

自分に役割があり、感謝してもらえます。こんな嬉しいことはありません。

私の場合、退職してからわずか5日目で、仕事先と私の病気を理解して支えてもらえる、家族の会のサポートをいただけたことで

今の私があると思っています。

退職後、どこにも行く先がなく、昼間ひとりでボーツとしている生活を、送っていたら、私と妻はどうなっていたでしょうか。

今を楽しむことが出来ていたでしょうか。

家族の会徳島県支部の皆さんには、感謝することばかりです。

私は、家に引きこもるのは一番いけないと思っています。

認知症になっても認知症を理解し、できない事をサポートしてくれることで

出来ることはありません。

役割りがある。出かける場所があり、できることがある。

失敗しても怒られない。安心できる場所。そのような環境がいいんです。

普通に話もできるし、わたしを必要としてくれる。

自分も役に立てていると思えることが、

とても嬉しく、ありがたいと思っています。

退職が決まり 一番心配したのは 夫の行き先がなくなることでした。
認知症の人と家族の会 徳島県支部へ相談。

退職後5日目より家族の会 徳島県支部 大下百合子さんや大下代表のお母様にサポートしていただきながら 農家での作業を続けることができました。
病氣のことを理解し見守って下さるおかげで、喜んで通う夫は
活き活きとしていました。

行く先がある 信じられる人がそばにいてくれる 不安のない毎日。

認知症と診断されても 出来ることは、まだまだたくさんあります。

早期発見、早期絶望 そんな状況のままにさせないで下さい。

どうか皆さんの本氣のお力で 病氣と闘いたいと思っている認知症の人を
助けて下さい。

夫も私も まだまだ戦うことを 諦めていません。

私たち夫婦がお願いしたいことは、 対価の発生する就労ではなく
社会参加としての行き先作りです。

病氣の進行を遅らせたいという一心なので、ボランティアとして行えるよう
お願いしたいです。

費用が発生すると、何もかもがとて遅くなります。

病氣の進行は待ってくれません。

どうか、貴方のそばの机一つ貸していただき仕事を下さい。
できることはたくさんあります。

ぜひ、真剣に一緒に考えていただければと思います。

